

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特許公報(B2)

(11) 特許番号

特許第4368959号
(P4368959)

(45) 発行日 平成21年11月18日(2009.11.18)

(24) 登録日 平成21年9月4日(2009.9.4)

(51) Int.Cl.

G09B 19/16 (2006.01)

F 1

G09B 19/16

請求項の数 1 (全 7 頁)

(21) 出願番号	特願平10-255718	(73) 特許権者	305062549 ヤマト運輸株式会社 東京都中央区銀座2丁目16番10号
(22) 出願日	平成10年9月9日(1998.9.9)	(74) 代理人	100072084 弁理士 竹内 三郎
(65) 公開番号	特開2000-89659(P2000-89659A)	(74) 代理人	100110962 弁理士 市澤 道夫
(43) 公開日	平成12年3月31日(2000.3.31)	(72) 発明者	椎名 孝幸 埼玉県越谷市流通団地1-4-5 ヤマト 運輸株式会社越谷中央工場内
審査請求日	平成17年8月31日(2005.8.31)		
審判番号	不服2007-24984(P2007-24984/J1)		
審判請求日	平成19年9月11日(2007.9.11)		
		合議体	
		審判長	服部 秀男
		審判官	田部 元史
		審判官	右田 昌士

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】車の死角確認用装置

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項 1】

車体の前方及び側方に、運転席の窓越しに視認できる位置にポイント用ポールを立て、該ポイント用ポールの下部相互間を、車体の前縁辺及び左右側縁辺に沿う並行方向で、且つ、車体から所定間隔を保ちジョイントパイプを用いて横架連結すると共に、車体のボンネットのヒンジ部並びに車体の左右のドア窓の下枠近傍に取付け具を取り付け、この取付け具とジョイントパイプとの間に、所定間隔を保ち多数本の紐を張設し、張設された多数本の紐により形成される仮想面から下方の立体空間によって死角を構成することを特徴とする車の死角確認用装置。

【発明の詳細な説明】

10

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は車の死角確認用装置に係り、特に、交通事故を未然に防止すべく運転に先立つて死角となる立体空間を運転者に認識させることを目的とした車の死角確認用訓練装置に関するものである。

【0002】

【従来技術とその課題】

従来、自動車、特に宅配便等に使用される運送用車輌は、車種、大きさ、形態差により運転席からの直接視界に相違点が見られるので、夫々の車輌の死角範囲を把握しておくことが交通事故を未然に防止するうえで必要不可欠な課題である。

20

そこで、車種等が変更になった時点で、その車を運転する運転者に実際に死角範囲を把握してもらうために、静止状態において死角となる立体空間を記憶に止めるように訓練できる装置の開発の必要性に迫られていた。

【0003】

【課題を解決するための手段】

本発明は上記課題を解決するためのものであって、その要旨は、車体の前方及び側方に、運転席の窓越しに視認できる位置にポイント用ポールを立て、該ポイント用ポールの下部相互間を、車体の前縁辺及び左右側縁辺に沿う並行方向で、且つ、車体から所定間隔を保ちジョイントパイプを用いて横架連結すると共に、車体のボンネットのヒンジ部並びに車体の左右のドア窓の下枠近傍に取付け具を取付け、この取付け具とジョイントパイプとの間に、所定間隔を保ち多数本の紐を張設し、張設された多数本の紐により形成される仮想面から下方の立体空間によって死角を構成することを特徴とする車の死角確認用装置にある。10

【0004】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施例を図面に基づき具体的に説明する。

図1は、本発明の取付け状態を斜視図で示し、図2は、本発明の配設状態を平面図で示し、図3は、本発明で用いる視界表示ツールの一例を斜視図で示し、図4は、本発明で用いる視界表示ツールとポイント用ポールとの接続状態を斜視図で示し、図5は、本発明により確認される死角立体空間を正面図で示し、図6は、本発明により確認される死角立体空間を側面図で示す。20

【0005】

本発明は、図1に斜視図で、また、図2に平面図で示す如く、車体Aの前方及び側方に、運転席A-1の窓越しに視認できる位置にポイント用ポール11を立て、該ポイント用ポール11の下部111相互間を、車体Aの前縁辺F及び左右側縁辺L,Rに沿う並行方向で、且つ、車体Aから所定間隔を保ち視界表示ツール12のジョイントパイプ14を用いて横架連結すると共に、該ジョイントパイプ14から略運転席方向に向け多数本の紐15を放射状に張設したことを特徴とし、また、ジョイントパイプ14とツール取付け具13との間に所定間隔を保ち多数本の紐15を跨設してなる視界表示ツール12を用い、上記ツール取付け具13を、ボンネットのヒンジ部A-2並びに車体Aの左右のドア窓A-5,A-4の下枠近傍に取付けると共に、前記ツール取付け具13とジョイントパイプ14間を紐15で張設したことを特徴とし、更に、車体Aの前縁辺F及び左右側縁辺L,Rに並行に、ポイント用ポール11,11相互間に横架連結されるジョイントパイプ14が、運転席A-1からの直接視界にぎりぎり入らない位置に配設されていることを特徴とするものである。30

【0006】

上記本発明により、ポイント用ポール11の下部111相互間を横架連結しているジョイントパイプ14が、運転席A-1からの直接視界にぎりぎり入らない位置に配設され、また、ジョイントパイプ14から略運転席A-1方向に向け多数本の紐15が放射状に張設されているので、この張設された多数本の紐15により形成される仮想面から下方の立体空間は死角を構成することとなる。40

そこで、車種等が変更になった時点で、上記本発明を用いて運転者に実際の死角範囲Bを把握してもらうための訓練を行なえば、死角となる立体空間を的確に記憶に止めることができるようになると云う作用効果を奏するものである。

【0007】

【実施例】

本発明で車の運転席A-1の窓越しに視認できる位置に置くポイント用ポール11は、地面に安定して固定するウォーターアンカー112等の土台に取付けられ移動自在に配置されると共に、ジョイントパイプ12の相互間を連結する機能を有し、且つ、目立つ色彩に塗装してジョイントパイプ12の配設位置を表示する。50

【0008】

本発明で使用する視界表示ツール12は、取付け具13、ジョイントパイプ14、及び、双方を結ぶ紐15とからなり、何れも図3に斜視図で示す如く、ツール取付け具13とジョイントパイプ14間に、好ましくは、ゴム弾性を具えた位置決め紐15a～15dや紐15が所定間隔毎に取付けられ、そして、ツール取付け具13には、車体Aのボンネットのヒンジ部A-2や左右のドア窓A-5,A-4の下枠近傍に引っ掛けで止着することができるフックやクリップ等の止着具131が具設されている。

上記止着具131は、図3には、車体Aの右ドア窓A-4の下枠に止着するものの一例を示したが、この構造のものに拘束されるものではなく、ボンネットのヒンジ部A-2や左ドア窓A-5にワンタッチで取付けできるものであれば何れであっても良い。 10

【0009】

そして、上記視界表示ツール12のジョイントパイプ14は、その両端に連結リング141が一体に取付けられ、また、本体の一方の筒状体に他方の筒状体が摺動可能に内挿されて長手方向に伸縮する構造のものであって、ポイント用ポール11,11相互の間隔に対応させて長さを調整し、連結させることができるようになっている。

また、上記視界表示ツール12のジョイントパイプ14とポイント用ポール11との接続は、図4に斜視図で示す如く、視界表示ツール12のツール取付け具13から、位置決め紐15a～15dや紐15を利用して、ジョイントパイプ14を矢印方向に長さ調整しつつ、予め配置されたポイント用ポール11まで誘引し、ジョイントパイプ14の連結リング141をポイント用ポール11に挿着することにより、ポイント用ポール11,11相互間にジョイントパイプ14を横架連結することができる。 20

【0010】

上記本発明を車体Aの周辺に配設するには、先づ、車体Aを平坦な地面（路面相当の舗装地面）に静置し、ウォーターアンカー112に取付けたポイント用ポール11を、車体Aの前縁辺F及び左右側縁辺L,Rに沿う並行方向の適当な位置に配置しておく。

図1,図2に示す如く、車体Aの前縁辺Fに沿う延長線がジョイントパイプR1及びL1に交わる点に夫々位置決めテープ142を付しておく。

【0011】

そして、図1乃至図4に示す如く、視界表示ツール12のツール取付け具13を、クリップ等の止着具131を用いて車体Aのボンネットのヒンジ部A-2に取付け、次いで、ゴム弾性により伸縮自在な位置決め紐15aをアンカーポイントP1の位置まで誘引すると共に、位置決め紐15bをアンカーポイントP4まで誘引し、P4位置のポイント用ポール11に、摺動可能なジョイントパイプ14の長さを調節しながらその連結リング141を挿着して、車体Aの前縁辺Fから位置決めテープ142を結ぶ線と並行方向でF1,F2,F3が一直線になるようにジョイントパイプ14を配設する。 30

この時、図6に側面図で示す如く、ポイント用ポール11の下部111相互間に横架連結されるジョイントパイプ14が、運転席A-1からの直接視界にぎりぎり入らない高さ位置に配設することが必要である。

【0012】

上記ポイント用ポール11付近で位置決め紐15aが張設された所が、基点のアンカーポイントP1となるので一番初めに取付けられる。 40

次いで、図2に示す如く、車体Aの右側縁辺Rに沿う延長線がジョイントパイプ14のF1に交わる点、及び、左側縁辺Lに沿う延長線がジョイントパイプ14のF2に交わる点に夫々位置決めテープ142を付しておく。

【0013】

次に、車体Aの右側縁辺Rに沿う延長線がジョイントパイプF1に交わる点に位置決めテープ142を付しておく。

そして、車体Aの右ドア窓A-4の下枠近傍にクリップ等の止着具131を引っ掛けで視界表示ツール12のツール取付け具13を取付けると共に、位置決め紐15cをアンカーポイントP6の位置まで誘引し、ジョイントパイプ14の長さを調節しながらその連結リ 50

ング 141 をポイント用ポール 11 に挿着して、車体 A の右側縁辺 R から位置決めテープ 142 を結ぶ線と並行方向で、R1, R2 が一直線になるようにジョイントパイプ 14 を配設する。

この時、図 5 に正面図で示す如く、ポイント用ポール 11 の下部 111 相互間に横架連結されるジョイントパイプ 14 が、運転席 A - 1 からの直接視界にぎりぎり入らない高さ位置に配設することが必要である。

【0014】

更に、車体 A の左ドア窓 A - 5 の下枠近傍にクリップ等の止着具 131 を引っ掛けた視界表示ツール 12 のツール取付け具 13 を取付けると共に、図 2 に示す如く、位置決め紐 15d をアンカーポイント P8 の位置まで誘引し、ジョイントパイプ 14 の長さを調節しながらその連結リング 141 をポイント用ポール 11 に挿着して、車体 A の左側縁辺 L から位置決めテープ 142 を結ぶ線と並行方向で L1, L2 が一直線になるようにジョイントパイプ 14 を配設する。10

この時もまた、図 5 に示す如く、ポイント用ポール 11 の下部 111 相互間に横架連結されるジョイントパイプ 14 が、運転席 A - 1 からの直接視界にぎりぎり入らない高さ位置に配設することが必要である。

【0015】

上記の如く、本発明を車体 A の周辺に配設することにより、運転席 A - 1 からの死角範囲 B は、図 5 に正面図で示す如く、運転席 A - 1 の左右のドア窓 A - 5, A - 4 越しの直接視界から外れた正面視死角 B - 1 と、図 6 に側面図で示す如く、車体 A のフロントガラス A - 3 の直接視界から外れた側面視死角 B - 2 等が合成され把握される。20

【0016】

運送用車輛の車種、大きさ、形態差等によって運転席 A - 1 からの直接視界が相違するので、予め、訓練により夫々の車体 A の死角範囲 B を的確に把握しておくことが、交通事故による人身事故を未然に防止するうえで必要なことであり、この目的に沿って、車種等が変更になった時点で、都度その車を運転する運転者に実際に死角範囲 B を把握してもらうために、本発明を用いて訓練を行なうことにより、死角範囲 B の立体空間が把握され、記憶に止めることができるようになるものである。

【0017】

【発明の効果】

本発明は上記構成よりなるので下記効果を奏する。30

即ち、本発明を用いて訓練することにより、車種等の変更に伴ない運転席からの直接視界が相違する場合に、運転者が運転に先立って実際に死角となる立体空間を的確に記憶しておくことができるので、人身事故等の交通事故を未然に防止することに役立つと云う作用効果を奏する。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の取付け状態を斜視図で示す。

【図 2】本発明の配設状態を平面図で示す。

【図 3】本発明で用いる視界表示ツールの一例を斜視図で示す。

【図 4】本発明で用いる視界表示ツールとポイント用ポールとの接続状態を斜視図で示す。40

【図 5】本発明により確認される死角立体空間を正面図で示す。

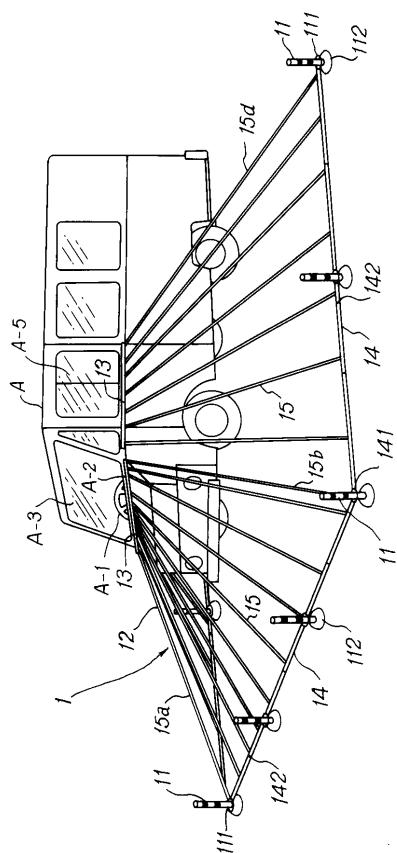
【図 6】本発明により確認される死角立体空間を側面図で示す。

【符号の説明】

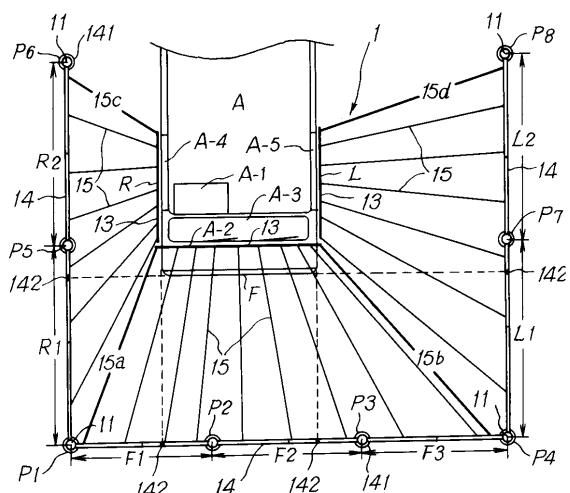
1	死角確認用訓練装置
11	ポイント用ポール
111	ポール下部
112	ウォーターアンカー
12	視界表示ツール
13	ツール取付け具

1 3 1	止着具	
1 4	ジョイントパイプ	
1 4 1	連結リング	
1 4 2	位置決めテープ	
1 5	紐	
1 5 a ~ 1 5 d	位置決め紐	
A	車体	
A - 1	運転席	
A - 2	ポンネットのヒンジ部	
A - 3	フロントガラス	10
A - 4	右ドア窓	
A - 5	左ドア窓	
B	死角範囲	
B - 1	正面視死角	
B - 2	側面視死角	
F	前縁辺	
R	右側縁辺	
L	左側縁辺	

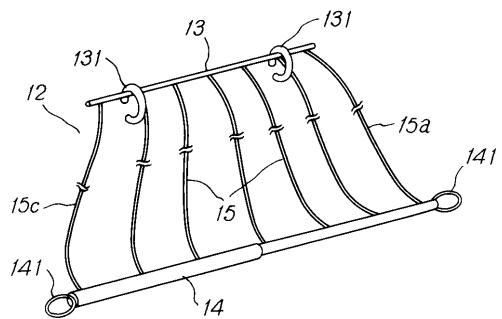
【図 1】



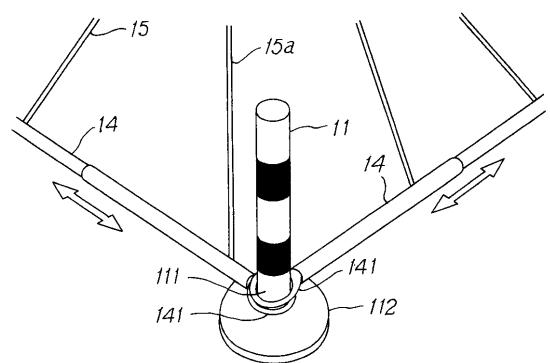
【図 2】



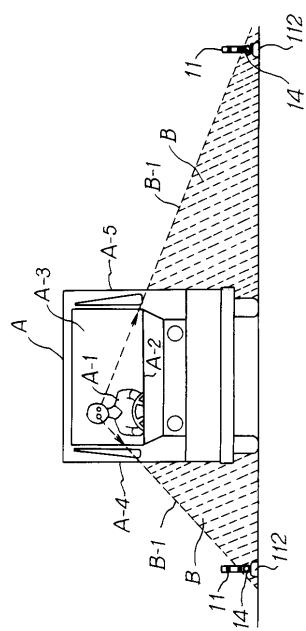
【図3】



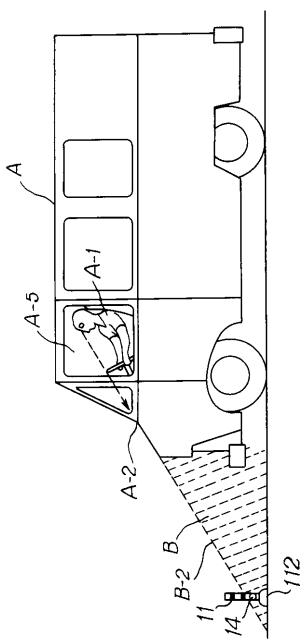
【図4】



【図5】



【図6】



フロントページの続き

(56)参考文献 特開平10-49041(JP,A)
特開平8-48497(JP,A)
特開平10-109885(JP,A)
実開昭61-160195(JP,U)

(58)調査した分野(Int.Cl., DB名)

G09B19/16

B66C23/88